守谷市動物の愛護及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、守谷市動物の愛護及び管理に関する条例（平成27年守谷市条例第3号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則で使用する用語は、条例で使用する用語の例による。

(動物の愛護及び管理に関する施策)

第3条 市は、条例第4条に規定する市の責務として、次に掲げる施策を実施するものとする。

- (1) 動物の愛護及び管理に関する啓発並びに教育に関する施策
- (2) 動物愛護活動を行うボランティア育成のための施策
- (3) 動物のしつけに関する施策
- (4) 前各号に掲げるもののほか、市長が動物の愛護及び管理のために必要と認める施策

(けい留の除外)

第4条 条例第7条第1号エに規定する規則で定めるときは、次の各号のいずれかに該当するときとする。

- (1) 飼い犬を、人の生命、身体又は財産（以下「人の生命等」という。）に危害を加えるおそれのない場所又は方法で、曲芸、展覧会、競技会その他これらに類する催しに参加（その参加のための訓練等を含む。）させるとき。
- (2) 人が容易に抱え又は肩に乗せることのできる大きさの飼い犬を、人の生命等に危害を加えるおそれのない場所又は方法で保持するとき。
- (3) 愛がんの目的のため生後90日以内の飼い犬を飼養するとき。

(一時預かり期間)

第5条 条例第9条第1項の規則で定める期間は、原則として不明犬等を預かった日から起算して7日以内とする。

(一時預かりをすることが不適切と判断する場合の要件)

第6条 条例第9条第1項ただし書に規定する判断は、次に掲げる要件により行うものとする。

- (1) 不明犬が、次に掲げる要件のいずれかに該当する場合
 - ア 人の生命等に危害を加えるおそれがある場合
 - イ 負傷等している場合
 - ウ 茨城県動物の愛護及び管理に関する条例（昭和54年茨城県条例第8号）第2条第5号に規定する特定犬（生後9箇月未満のものを除く。）である場合
 - エ その他市長が一時預かりをすることが不適切である特別な事由があると認める場合
- (2) 不明猫が、次に掲げる要件のいずれかに該当する場合

- ア 人の生命等に危害を加えるおそれがある場合
- イ 負傷等している場合
- ウ 生後推定1箇月未満又は6箇月を超える場合
- エ 自力で餌を摂取できない場合
- オ その他市長が一時預かりをすることが不適切である特別な事由があると認める場合

(不明犬等の一時預かりの依頼)

第7条 不明犬等を保護した者が、条例第9条に規定する不明犬等の一時預かりを求める場合は、不明犬等一時預かり依頼書(別記様式)を市長に提出するものとする。

(災害時の動物の保護)

第8条 条例第10条に規定する必要な措置は、次に掲げるものとする。

- (1) 避難所における動物の受け入れ体制の整備
- (2) 飼い主の負傷等の理由により救護を要する動物に対する救護体制の整備
- (3) 負傷動物の救護体制の構築
- (4) 前各号に掲げるもののほか、災害時における動物の保護のために市長が必要と認める措置

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

別記様式（第7条関係）

年 月 日

守谷市長 宛て

郵便番号

住 所

申請者 ふりがな
氏 名

〔 法人その他の団体の場合は、団体名
及び代表者の氏名 〕

電話番号

不明犬等一時預かり依頼書

守谷市動物の愛護及び管理に関する条例第9条の規定により、下記のとおり〔 犬 猫 〕
の一時預かりを依頼します。

記

守谷市の犬・猫の一時預かり期間は預かった日を含めて7日までであることを承諾し、一時預かり期間を過ぎた犬・猫は、茨城県動物指導センターへ移送され、収容期限（収容日を含めて4日間）が過ぎた場合は、致死処分となることに同意します。

1 保護日時 年 月 日 時 分

2 保護場所

3 保護動物

種別	理由	飼い犬(猫)の可能性	体格	性別	毛色	首輪〔色〕	年齢(推定)	種類
成犬 子犬 成猫	・迷い ・捨てられ ・負傷 ・徘徊(犬)	有 無	大 中 小 子	オス メス		有 〔 〕 無	才 ヶ月	雑種 不明 ()
成犬 子犬 成猫	・迷い ・捨てられ ・負傷 ・徘徊(犬)	有 無	大 中 小 子	オス メス		有 〔 〕 無	才	雑種 不明 ()